

登録コード	UAC25500	開講年度	2026			
授業題目	日本文学研究				担当教員	渡邊 匡一
					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・5 時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学，2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				思想、歴史、言語など多様な側面を持つ日本文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により、専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を涵養する。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				思想、歴史、言語など多様な側面を持つ日本文化に関する文献・資料を収集・分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することにより、深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を涵養する。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				思想、歴史、言語など多様な側面を持つ日本文化に関する文献・資料を収集・分析・考察することにより、高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を涵養する。	
(2)授業の概要	上記目標達成のため、授業形式は、教員による講読・補説と受講生による課題発表、討論とを往還的に行うアクティブ・ラーニング方式で行う。受講生にはテキストの読み込みや、理解を促すための課題を課す。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス（全15回を概観） 第2回：第一章「資料学 - 歌書 -」（講読・補説） 第3回：第一章「資料学 - 歌書 -」（課題発表と討論） 第4回：第一章「資料学 - 寺院資料 -」（講読・補説） 第5回：第一章「資料学 - 寺院資料 -」（課題発表と討論） 第6回：第二章「メディア・媒体 - 物語と絵画 -」（講読・補説） 第7回：第二章「メディア・媒体 - 物語と絵画 -」（課題発表と討論） 第8回：第二章「メディア・媒体 - 宗教絵画 -」（講読・補説） 第9回：第二章「メディア・媒体 - 宗教絵画 -」（課題発表と討論） 第10回：第三章「身体・芸能 - 能・狂言 -」（講読・補説） 第11回：第三章「身体・芸能 - 能・狂言 -」（課題発表と討論） 第12回：第三章「身体・芸能 - 寺院儀礼と芸能 -」（講読・補説） 第13回：第三章「身体・芸能 - 寺院儀礼と芸能 -」（課題発表と討論） 第14回：第四章「人と現場 - 歌壇 -」（講読・補説） 第15回：第四章「人と現場 - 歌壇 -」（課題発表と討論） 定期試験は実施しない					
(4)成績評価の方法	各章2回目に課題発表(60点)と討論(40点)を行い、それぞれの課題への到達目標への到達度を課題評価点ではかる。					
(5)成績評価の基準	90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。 【秀：卓越している】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【優：かなり上にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【良：やや上にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、高い水準にある。 【可：その水準にある】文献学的・文学的研究法に関する基礎的な知識をもとに、適切な学学的処理を行い、論理的思考をし、自立的に考える力を総合して、一定水準にある。					
(6)事前事後学習の内容	1) 受講者は講読発表に際して要点を簡潔にまとめ、疑問点、不明点を明確にしておく。 2) 授業担当者が出した課題発表のための事前準備には、下記参考文献や授業内で紹介した参考文献などを用いること。 3) 必ずレジメを準備すること。（パワーポイント利用は任意） 4) 利用した参考文献は全てレジメに明記すること。					
(7)履修上の注意	・無断欠席・遅刻は厳禁。 ・止むを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡すること。					
(8)質問、相談への対応	メール連絡・担当教員のオフィアワーにおいて対応する。面談を希望する際は、事前に必ず連絡を取ること。kwata@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。					

【参考書】	中世文学会『中世文学研究は日本文化を解明できるか』笠間書院 他
-------	---------------------------------